

岩見沢聖十字幼稚園 関係者 評価

評価年月日 平成 30 年 1 月 21 日

評価者氏名 瀧澤 聡 (北翔大学生涯スポーツ教育学科)

【園長の自己評価について】

評価が、Aが全項目中 83.3%、Bが全項目中 16.6%であり、基準が達成されているということなので、特に意見はない。

今年度は、園創立 50 周年記念の行事や園庭改造等の大きな節目や環境変化があったが、無事に実施できたようである。特に、園庭改造は予算内でおさまり、園庭完成にむけての準備が整えられたと考えられる。

【教職員の自己評価について】

職員の評価に関して、「保育の計画性」「保育の在り方、幼児への対応」「保育者としての資質」「保護者への対応」は、Aが多く、Bがそれに次ぐという結果であり、一方で「地域の自然や社会とのかかわり」「研修と研究」では、Bが多く、Aがそれに次ぐという結果であった。このことは、園の傾向として定着した感があると思われる。ただ、「地域の自然や社会とのかかわり」の評価項目のうち、AとBがほぼ拮抗していた。今年度は、園庭改造のため、職員がそれに関連する研修会に参加し研鑽を積んだようなので、そのことがこの領域についての評価に影響を与えていたと思われた。

園全体にかかわるテーマがあれば、職員の中には、それに真摯に向き合い、保育上における成果を出そうと努力する者がいると思われる。園庭改造が一つの契機になり、職員の意識を変化させたことは十分に推察できるので、次年度以降、職員の「地域の自然や社会とのかかわり」に対する評価がさらに向上するように研修計画を設定することをすすめたい。

しかし、「研修と研究」に対しては、自己評価が依然として低い傾向が継続しており、中々改善が見られないようである。「保育者としての専門性に関する研修・研究」の評価では、他の項目に比べてもっともCの数が多い。日々の実践に追われて「研修・研究」までに取り組むことは不可能と考える保育士は多いとされる。「研修・研究」の意味が、研究テーマや専門的なことに取り組むことと解釈するなら、それは狭い意味であろう。保育における教材について、もっとも適切なものを調査することも「教材研究」という研究の営みの一つになる。広い意味での研究・研修を園全体で共通理解をはかりながら、次年度は取り組むことで、改善が見込まれると考えられる。

【保護者のアンケート結果について】

アンケートに対するコメントは、保護者の自由記述の内容を的確にカバーしており、今後の検討課題と保護者に理解を求めると点が、明確である。保護者の方の疑問等について、それに対応するために幼稚園としての理由を明確に述べて、謙虚に願いを伝えるという方法は、

第三者が読んでも安心できる。このことは、聖十字幼稚園の良き文化であると思われ、今後
もこのように誠実かつ謙虚にそしてぶれない対応が多く地域における支持者を得ること
につながっていくと思われる。

【本園の自己評価について、上記記述以外のご意見、ご感想がありましたらご記述下さい】

「どの子ども輝く保育」を実践されているのが、本園であると思われる。特別支援教育の研
修にも積極的に取り組まれており、もっとも支援が必要な子どもたちへの保育実践を、ここ
数年は園全体で実践されている。先生方のこの領域における質が年々向上していることが、
特別支援教育アドバイザーの立場からすると実感できる。次年度も最も弱い立場の子ども
たちをも保育実践の射程に入れながら、他の子どもたちも共に成長できるように、先生方に
は尽力していただきたい。